

■九州朝日放送番組審議会議事概要（7月分）

第605回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成30年7月17日(火) 午後3時30分～5時05分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	委員総数 8名 出席委員数 7名  (出席委員) 古宮 洋二 委員長 野田 幸之輔 副委員長 戸田 康一郎 委員 守田 有理子 委員 鶴 利絵 委員 井手 雅春 委員 池田 勝 委員  (放送事業者側出席者名) 代表取締役社長 和氣 靖 取締役 笹栗 哲朗 取締役総合編成局長 森 君夫 報道局長 臼井 賢一郎 ラジオ局長 穴井 建一 ラジオ局編成制作部長 渡辺 浩司 ラジオ局編成制作部 担当部長 佐藤 雅昭  番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長 井上 千秋 番組審議会事務局員（視聴者・広報室） 松永 俊郎
議題	議題 ラジオ番組「PAO～Nプレゼンツ ねえ！ひふみん グレイテストヒッツ Vol.1」 放送日時：5月26日（土）昼0：30～1：00  報告事項 1. 西日本豪雨報道におけるKBCの報道体制について（報道局・ラジオ局） 2. 平成30年7月・8月 ラジオ・テレビ番組編成状況 3. 平成30年6月 視聴者・聴取者応答状況 4. 次回 平成30年9月度（第606回）審議会日程 9月18日(火)午後4時00分～開催 <課題> ディスカッション/系列番組審議会委員代表者会議議題案 「地上波テレビが生き残るためには～インターネット社会の中で～」 5. その他
議事の概要	◎委員の意見（概要）  委員からは、 ○「ひふみん」の愛称で親しまれる将棋の加藤一二三棋士の独特の早口言葉と口癖を想定問答にした番組の構成は、思わず吹き出してしまうほどの面白さがあった。幼い頃に同じようなやり取りをしていたユニークな友人がいたなと思い出させるような懐かしさがあり、30分の短時間で肩の力を抜いてリラックスして楽しめることができた。 ○リスナーに自分も何かネタを考えてみようとするような創作意欲を刺激させる内容で、さすがに「博多にわか」を生んだ風土のなせる業だと感じた。常々ラジオは「言葉のメディア」だと考えているが、言葉遊びの面白さに着眼した番組の構成からは、ラジオらしいエンターテインメント性を感じた。 ○パーソナリティの話し方や、前ふり、やりとりも番組をより面白くするために大きな影響を与えていたと思う。ベテランのKBC沢田幸二アナウンサーと原田らぶ子さんの番組進行はさすがだと感じたし、入社2年目のKBC岡田理沙アナウンサーは1980年代的な番組の作りもしっかりついてきていた。岡田アナウンサーの存在は若い世代にラジオの楽しみ方を伝える伝道師的な役割があるのではないかと感じた。 ○スタジオのほのほのとしたいい雰囲気伝わって来ると同時に、自らが学生時代、受験勉強の合間によく聞いた深夜のラジオ番組のことを思い出した。一方で、県外に住むリスナーからの投稿（ネタ）が紹介される場面からはradikoの出現で今やエリアを気にせず聴取するリスナーが増えているのではないかと感じた。 などの評価を頂きました。  また、気になる点や望むこととして、 ○番組タイトルに「ひふみん」とあることから、将棋の加藤一二三棋士がゲストとして登場するのではないかと誤解した。加藤棋士にちなんだ内容（ネタ）もあまりなかった印象を受けたことから、そこまで加藤棋士の名前に頼る必要があったのだろうか疑問に感じた。 ○通常の「PAO～N」は平日の放送でもあることから聞いたことがなく、「ねえ！ひふみん」というコーナーの存在も知らなかったため、企画内容を理解するまでに時間を要した。 ○番組の冒頭で「あの有名人だったらこんな答えが返ってくるだろうという想定問答を楽しむ言葉遊びのコーナーです」という説明を加えるなどの工夫が欲しかった。 などの評価を頂きました。  これらに対して、担当者から、 ○「ねえ！ひふみん」は「PAO～N」内の1コーナーではあるが、面白いところをダイジェストにして放送すると楽しい番組なるだろうと思った。また、今までラジオを聞いていなかった人にも聞いてもらう機会にならないかと考え特番化を試みた。 ○ラジオ番組の告知をラジオだけで展開していても新規のリスナー開拓にはつながらない。KBC沢田幸二アナウンサーが出演するテレビ番組「サワタデス」をはじめSNS等を通じて、普段はラジオを聞いていないという人にも聞いていただけるようにPRを工夫した。 ○実際に普段から番組を聞いているのは50代や60代の方が中心。投稿などが増加傾向にあり、次第にradikoが定着してきた印象を受けている。 などの説明をしました。  また、「西日本豪雨」におけるKBCの報道体制について、以下の通り報告を行いました。 ○（報道局）L字画面対応のほか「報道特番 九州北部に記録的大雨」等の報道特番を放送。全国ネット、ブロック系列局、AbemaTVでのネット対応も実施した。 ○（報道局）ラジオに速報や出稿対応のほか、記者の電話中継を随時実施した。TVの特番は全て自社ホームページでサイマル配信を行ったほか、6日午後の特番はAbemaTVでも配信を実施した。 ○（ラジオ局）7月5日（木）午後を生ワイド番組で速報対応、注意喚起を行った。6日（金）は早朝から番組スタッフの体制を強化し、生ワイド番組で情報を伝えた。また、大雨特別警報が発表された後の野球中継を差し替えて、豪雨情報番組を制作した。 ○（ラジオ局）特別番組はKBC沢田幸二アナウンサー（PAO～N）、甲斐田貴之（夕方じゃんしゃん）、尾澤気象予報士（KOC）の3名で進行。報道記者のレポート、ラジオMCの電話レポート等を行った。またリスナーからのメールやファクスで様々な情報が寄せられ、番組内で3件を紹介したほか、地域企画部とも連動し一般のリスナー6名に電話出演いただいた。